

## 令和7年度全国学力・学習状況調査における

### 北九州市立 洞北 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

#### 3. 教科に関する調査結果の概

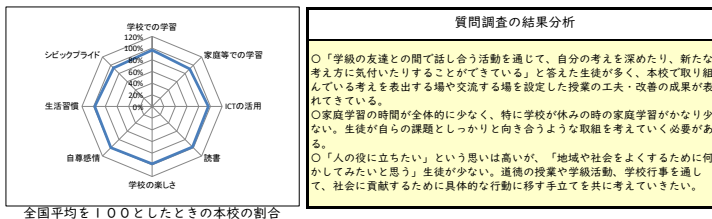
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	正答数は全国の平均点と同じであるが、中位層の割合が高い。「書くこと」の正答率が低い傾向にある。自分の意見をもつことはできているが、それを文章化することが苦手な生徒が多い。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	話の流れや発表内容を分かりやすく工夫する問題や物語の流れをつかむ問題。	
	努力が必要な問題	適切な言葉の意味を選ぶものや文章中の間違いを正す問題。「書くこと」に関する問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	正答数は全国の平均点と同じであるが、中位層の割合が高い。「数と式」「データの活用」については無回答率が低く、記述式の正答率も高い。一方で「関数」「図形」の無回答率はやや高く、苦手意識をもっている生徒が多い。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	数と式に関する問題や関数の領域の問題。	
	努力が必要な問題	データの活用に関する問題や図形（証明の仕組み）に関する問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	正答率上位層が多く、全国平均を上回っている。知識を生活に活用することや、探究の過程の見通しについて分析する記述問題の正答率が高く、また無回答も低い。既習内容を深く理解している生徒が多いと考えられる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	化学変化をモデルや元素記号であらわす問題。探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現する問題。	
	努力が必要な問題	地層を構成する粒の大きさに着目する問題。	

#### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



#### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

授業の中で短い文章で表現する活動を積み重ね、自分の考えを文章化する力の向上を図る。また習熟度にあった課題を課すことで個別最適な学びを促したい。AIドリル等を活用し、既習内容を繰り返し復習する機会を設け、知識の定着を図りたい。

- ② 家庭生活習慣に関する取組

基本的な生活習慣は身についているが、休日の学習時間が短い生徒が多く、家庭学習の習慣が身についていない生徒が多い。家庭で自らの課題と向き合えるような取組を検討していきたい。